

Hello

# friends

2006

7

No.251

KANAGAWA  
INTERNATIONAL  
ASSOCIATION  
NEWSLETTER

(財) 神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーだ ぱらざ)1階 ☎045-896-2626

## 特集 せかいの交差点

～国境を越えるアーティストたち

● 平和をつくるためのアート。

—フィリピンから日本へ、日本からフィリピンへ。アリンシン・オパオン

● 伝統と文化のかけはし—バリ舞踊に魅せられて 長谷川亜美

● 移民の音楽—日系ブラジル人として、デカラセギたちへ、日本人たちへ。ホベルト・イシカワ

みんなで育てる多文化共生  
あいすフェス夕かなかがわ

- 「外国人教育相談」がスタート!
- BOOKS「ブエノス・ディアス、ニッポン—外国人が生きる「もうひとつニッポン」」
- 企画展「世界の戦場から」写真展開催 7・22(土)～8・27(日)

かながわのキー・パーソン：佐藤文則さん(ラオト・ジャーナリスト)



# 平和をつくるためのアート。

フィリピンから日本へ、  
日本からフィリピンへ。

Allison M. Opaon

アリソン・オパオン(カルチュラル・ワーカー)

「哀しみの涙の一粒を広い海へ還そう」(『GIVE PEACE A CHANCE TO MINDANAO!』より)

歌声が体中を響き渡る。フィリピンのタガログ語、ビサヤ語、ポルトガル語、英語、そして日本語の5つの言語で歌われる。この歌は、バンド・グループ「ラヒン・カユマンギ(褐色の民族)」のチャリティ・コンサートでうたわれた。グループのリーダー、アリソン・オパオンさんは、10年ほど前にフィリピンから日本に移住してきた。

アリソンさんはフィリピンのミンダナオ島で生まれた。ミンダナオ島は、フィリピンの国内で深刻な貧困地域とされている場所が最も多く、様々な先住民族と宗教が交じり合う中で、紛争が絶えない。アリソンさんは、フィリピンで生活していたときから、演劇や音楽活動に従事し、社会問題をテーマに様々な活動をおこなっていた。

1993年に知り合った日本人に誘われたのを機会に来日した。93、94年に東京や日本の各地で演劇のワークショップやコンサートをおこない、その後96年から日本に移住した。

現在、アリソンさんは工場で働くかたわら、フォークシンガーとして音楽活動をおこなったり、ホームレスやジャバニーズ・フィリピーノ・チルドレンの問題を取り上げた演劇活動をおこなったりしている。

音楽活動では、97年に結成した「ラヒン・カユマンギ」とともに、ミンダナオ島支援のためのチャリティ・コンサートやCDの製作をしている。

また、演劇活動では、横浜や川崎を中心に演劇に出演し、活躍してきた。最近では、名古屋で上演を予定しているフィリピン人コミュニティのために脚本も執筆している。

今年の4月には、在日フィリピン人の支援のために「KAFIN」横浜支



部を立ち上げた。問題を抱えている在日フィリピン人の相談役としても頼られる存在になっている。

日本での活動でフィリピンと大きく違うところはどこかと聞くと、「殺されないこと」。フィリピンでは反政府的な活動をすると命の危険にさらされる。活発に活動していたアリソンさん自身も危険な目にあったことがあるという。

また、アリソンさんは、フィリピンで活動をしていても気持ちの面で壁があると感じていた。それは、フィリピン人は政治的な違いや命が危険にさらされるという理由で、心に壁をつくってしまうからだ。その一方で、自分の思いや内面を自由に表現できる日本人の方が素直に共感してくれる人は多いという。

「今の日本でのフィリピンのイメージは、『パブ』『貧しい』などマイナスのものばかり。でもそうではなく、明るいフィリピンの姿を知ってもらいたい」「在日フィリピン人をサービスの対象としてとらえるのではなく、交流して壁をなくすことで一緒に暮らすことができる」。そう語るアリソンさんのまなざしはまっすぐで力強い。

なぜそんなに活発に活動をしていけるのかと聞くと、「私たちは社会の一部分であって、問題の一部分ではない」「何かをやらなければかわらない。(社会の一員として)手伝いたいという気持ちだけで力が出てくる」という。

そんなアリソンさんのメッセージは、明快だ。

「いろんな国や人がいて、言葉や文化は違っても、目的は一緒。(みんなで) 平和をつくりましょう」

■ラヒン・カユマンギ公式サイト <http://lahing.hp.infoseek.co.jp/>





**長** 谷川さんが最初に魅せられたのは、衣装だった。バリにツアーでいったとき、バリ舞踊を見た瞬間に、「衣装を着たいと思った」。バリの街中を探し回って見つけた貸衣装屋で、衣装を着て写真を撮った。その思い出が忘れられず、日本でバリ舞踊の教室に通うようになった。それが13年くらい前。やればやるほどもっと深く知りたいと思うようになり、踊りにのめりこんでいった。

募るバリへの思いと2000年という区切りから、とうとう行動へ。その春にインドネシア国立芸術大学デンパサール校舞踊学科に留学。そこでバリ舞踊の勉強と実践を繰り返した。

バリ舞踊は1曲20~30分のものが多く、長いと3時間にもなる。それを1ヶ月4回の授業でマスターした。学校の授業だけでは不十分なところは、個別に先生を訪問して1対1のレッスンをうけた。昼間の授業が終わると夜は先生とともに村で奉納の踊りに誘われて、帰宅が午前3時になることもあったという。

「音を体と目と耳で覚えた」。朝8時から夜中まで、踊り漬けの毎日だった。頭で覚えているのではなく、体にしみついている。何曲踊れるかは自分でも分からぬ。

留学中は踊りの基本を身につけるだけでなく、貴重な体験を得ることもできた。留学後半に、現地の村で子どもたちにバリ舞踊を教える機会があった。地方の村では日本人が来るというだけで大騒ぎ。ところが、その日本人が自分たちの伝統舞踊を踊るものだから、目を丸くして驚いた。しかし、それが子どもたちにとって刺激になってしまった。どこの国の子どもたちにとっても伝統は古臭い時代遅れのもの。インドネシアでも伝統舞踊の若い継ぎ手が少なくなっていた。その間に長谷川さんが入り、インドネシアで日本人が伝統文化

の橋渡し役となった。

2年間インドネシアでバリ舞踊の基礎を学び、帰国後バリ舞踊の教室を開講した。現在、横浜、藤沢、厚木、小田原などの神奈川県内で教室を開いている。受講生は若い人から年配の人まで様々だ。インドネシアにはいったことがないが、何か変わったことをやりたくてバリ舞踊を始める人も多い。

最近では、介護老人ホームや高齢者学級、養護学校で踊りを披露することもある。

長谷川さんにとっては、踊りを教えるよりも「一緒に楽しむ」。踊りを体験する人がバリ舞踊の魅力を知って、バリを好きになってもらえばと思っている。子どもたちにとっても異文化に触れる体験をすることで、「少しでも何かがあれば」と思う。

神奈川で活動する理由を聞くと、「江ノ島が好きだから」。江ノ島とバリ島は芸能の神様がまつられていたり、龍が出てきたりと共通点があるという。それに、東京には体験できる機会がたくさんあるが、神奈川には意外と少ない。地元に密着して少しでも異文化に触れられる機会を拡げることができたらと思っている。

「自分はバリが好きになって生きがいを得ることができた。その恩返しとして、バリと日本の架け橋になりたい」という。

なぜそれほどバリ舞踊に惹かれるのかと聞くと、「分からない。分からぬから踊るのかも」。

名前のとおり、アジアの美を伝える長谷川さんの「バリ大使」としての仕事はまだ始まったばかりだ。

#### ■バヌンダリ公式サイト

<http://www.geocities.jp/basundhari2005/>



**伝統  
と  
文化  
のかけはし  
バリ舞踊に魅せられて**



10歳くらいのときに母親に虐待されて家を追い出され、1~2年サンパウロの路上で生活した。路上で暮らす仲間と家をまわって物乞いをしたり、列車の中でお菓子を売って日銭を稼いだりして生活していた。夜は暴行を受ける危険があるため、列車の中で寝泊りした。

ホベルトさんに転機が訪れたのは、17歳のとき。人材派遣会社の紹介で日本にいけるチャンスを得た。ちょうど1990年に日本の入管法(出入国管理及び難民認定法)が改正され、日系人の移民労働者が増加したときだ。ホベルトさんは弟と一緒に日本へ出稼ぎに来た。

最初は群馬の工場で働いた。給料は時給800円で安かったが、弟と一緒に一生懸命に働き、人より多く仕事を任されるようになった。残業も他のブラジル人よりも多く、その分給料も多くもらった。それをおもしろく思わなかつたのは、同じように出稼ぎにきたブラジル人。「日本に来て大変だったのは、同じブラジル人と仲良くなることだった」。

そのホベルトさんがヒップホップに出会ったのは、94年にブラジルに一時帰国したとき。社会問題を鋭く批判するヒップホップに魅せられた。それから工場で働くかたわら、作曲を始めた。

2000年に、ホベルトさんと同じ日系ブラジル人のQと出会い、ヒップホップグループ「TENSAIS MC's」を結成。メンバーはホベルトさんとQ、ホベルトさんの2人の妹、日本人4人からなる。

結成後すぐにソニー・ミュージックエンタテイメント主催のオーディションで優勝。04年に初アルバム『Faca a Coisa Certa』を発売した。

そのアルバムの中には、こんなホベルトさんのリリックがある。「今ストリートでの現実のストーリーと無関心で無知な1人1人が創るヒストリー

取り留めのない犯罪めどのない垂れ流しの社会問題が題材」(『faca a coisa certa』より)

ホベルトさんは言う、「(歌を聴く人に)自分のことだけでなく、他人のこととも考えてもらいたい」「人とのつながりが一番大切なことを伝えたい」。

# 移民の音楽

日系ブラジル人として、  
デカセギたちへ、  
日本人たちへ。

Robert Ishikawa

ホベルト・イシカワ(TENSAIS MC'S)

路上で暮らした子どものときの経験が、ホベルトさんの音楽に深みを与えていた。しかし、ホベルトさんは「僕も他のストリートチルドレンと同じ道を歩むはずだった」。仲間だったストリートチルドレンは殺されるか、覚せい剤に侵されてしまっている。

ホベルトさんが今のように「立派」になったのは、自分に対する「誇り」があったからだという。ストリートチルドレンだったときでも、覚せい剤や盗みには決して手を出さなかった。

「今の自分があるのは、子どものときの苦い経験があったから」という。底辺から這い上がった経験から、他人を想う心の余裕が生まれた。そして、他者へ向けるまなざしで自分を見つめ直すことで、謙虚さも生まれた。

「自分よりも苦しい生活をしている人はたくさんいる」。その謙虚さは心の強さとなり、「誇り」へとつながっていた。ホベルトさんの謙虚な「誇り」はメッセージとなり、日本社会の問題を突いている。

「ホームレスは邪魔者としてしか見られていない。けれども彼らは(生活が苦しくても)犯罪者になっていない。それがどれだけすばらしいことかという見方は(誰も)していない」。

そして、在日ブラジル人の犯罪が増えることに心を痛め、自分と同じ在日ブラジル人たちにも「誇り」を持って生きてほしいと訴える。「ブラジル人としての誇りを持って勝つ為にここに居るんだろ!」(同上CDより)

まっすぐなまなざしと純粋な感情から発せられるメッセージは、経験に裏打ちされた強い芯を持っている。

■TENSAIS MC's公式サイト

<http://www.tensais.com/>



←TENSAIS MC'sのセカンドアルバム「faca a coisa certa」のCDジャケット



# あーすぶらざ 外国人 教育相談

「日本の学校のしくみがわからない」  
「日本語の教室を探している」「学校で使える多言語の資料はないか?」  
など、遠慮なく相談してください。  
相談員がお待ちしています。ご本人や保護者の方だけでなく、学校や支援者の方からの相談・問合せも歓迎です。

## 【相談日時】

火曜日 14:00~17:00 (16:30受付終了)

対応言語：中国語・日本語

日曜日 14:00~17:00 (16:30受付終了)

対応言語：日本語

※2007年1月から、タガログ語・スペイン語でも対応予定

## 【場所】

あーすぶらざ2階・情報フォーラム

相談用電話 045-896-2970 (相談日時のみ対応)

## 【問合せ】

(財)神奈川県国際交流協会 情報サービス課(担当：山内)

TEL: 045-896-2896 ※祝日除く月曜休み

## 教育相談コーディネーター

●加藤佳代(かとう かよ)



横浜生まれ。これまで、多言語社会、多文化社会のあり方、情報の流れ方、情報拠点としての図書館の可能性に关心をもち、ボランティア活動を続けてきました。これからは教育相談コーディネーターとして、皆さん一人ひとりのお役に立てるよう、力を尽くしたいと思います。気軽にお声をおかけください。

●栗林恵平(くりばやし けいへい)



中国の上海から来ました。1996年からボランティアに参加してきました。色々な人と出会い交流し、刺激を受けました。母国の人々、またほかの国の方々に少しでもお役に立ちたいと思います。皆様の日本での生活が楽しいものになるよう手助けができるれば幸いです。よろしくお願ひします。

## 『クラッシュ』(2005年度アカデミー賞主要3部門受賞)

人種差別と  
人間の内面に潜む  
善と悪



新聞や論文といった言葉や数字で「人種差別問題」を考えることも大切だが、それだけでは人の感情とそこから派生する疑問、複雑な人間関係、社会構図は描ききれない。感情を持った社会の断面図を垣間見、体の内部を締め付けられる切なさと、それでいて人が人を思う人間の温かさとを感じさせてくれる。

アメリカ、ロサンゼルスで起つた一件の自動車事故をきっかけに、「衝突」の連鎖が生み出され、様々な人々の運命が導かれる。刑事、警官、自動車強盗、地方検事とその妻、TVディレクターとその妻、鍵屋とその妻、病院の受付嬢、雑貨屋の主人…。様々な階層、様々な人種の彼らが予想もしない角度で交錯する。

様々な人種が存在するロサンゼルスで生じる「衝突」を、善悪で単純に描くのではなく、陰影に富んだ人物像を鮮やかに描き、私たちに多くの疑問を投げかけてくる。「黒人＝犯罪者＝悪」「白人＝人種差別主義者＝悪」「白人社会で闘う黒人＝英雄」…?

誰もが善悪の画面を持ち、誰もが愛や憎しみ、哀しみ、喜びのさまざまな感情を持ち、決して固定された凶式では表すことのできない人間の内面。そしてそれが織り成す社会。「人種差別問題」という言葉だけでは伝わらない、感情を持った社会の断面図を垣間見、体の内部を締め付けられる切なさと、それでいて人が人を思う人間の温かさとを感じさせてくれる。





# かながわのキーパーソン 佐藤 文則さん(フォト・ジャーナリスト)



さとう・ふみのり(フォト・ジャーナリスト)

1954年生まれ。現在、神奈川県横浜市在住。Impact Visuals、SIPAなどを経て、現在OnAsia Imagesに所属。『TIME』、『NEWSWEEK』、『S.F.CHRONICLE』、『世界』、『サンデー毎日』などに発表。

## 声なき者の声になる

**ジ**ャーナリストを目指しアメリカに留学中、言葉を使わずに伝えられる写真の魅力にひかれた。

1988年、新聞でクーデターの記事を読んだことをきっかけに、初めてハイチを訪れた。それ以来20年近くハイチを撮り続けている。

佐藤さんの写真には、内戦の犠牲になった死体や武装した兵士といった生々しいものもある。しかし、その一方で内戦と貧困の下に生きる人々が見せる一瞬の生命の証をしっかりととらえている。

「写真を撮るときに大切なのは、相手の存在を認めること」。恐怖感を持って相手と対峙すると、それは相手にも伝わってしまう。笑顔で接することで相手に安心感を与える。風貌や表情から醸し出される落ち着いた雰囲気は自然に身についた術なのかもしれない。

長く写真を撮り続けていても、ハイチの厳しい現実は変わらない。暴力は繰り返され、貧困は相変わらずだ。その現実を目の前にすると行き場のない怒りと、無力感で苦しくなる。ときにはシニカルになってしまふこともあるという。

シャッターをためらう瞬間はあるかと聞くと、友人が死にゆくときに一度撮れなかったことがあるという。それでも、「なるべく撮るようにしている。どのような状況でも目撃者になることがジャーナリストとしての自分の義務だと考えている」。

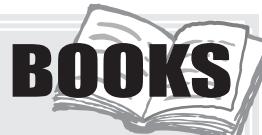
「声なき者の声になる」。その原点を失わず、少しでも役に立てればという思いを持って取材を続けている。

### ⇒⇒⇒⇒「世界の戦場から」写真展 ⇒⇒⇒⇒

佐藤さんの写真は、7月22日(土)からあーすぶらざで開催される企画展でも展示される予定です。そこでは、写真の展示のほか、映画上映会や講演会も開催されます。詳しくは、お問合せください。



## 在日外国人の「いま」を知っていますか?



〔ペノス・ディアス、ニッポン－外国人が生きる「もうひとつのニッポン」〕  
ななころびやおき著  
2,000円(税込み) ラティナ

いくつの外国人のトラブルをケースに扱つてきた弁護士が、その事件を紹介した「ラム」を冊の本にまとめた。片道チケットで「ラム」にやってきた「外国人たちが抱える物語から、「もうひとつの日本」の姿を垣間見ることができる。

日本に生まれた子どもが、日本人から生まれたのに、日本国籍をもらえないのはなぜだろうか? 不法滞在者=「犯罪者」と決め付けるまえに、なぜ不法滞在者となるのだろうか? 在留資格がなければ国民健康保険の資格がないと法律で定められているというのは本当だろうか? 在日外国人の障がい者はどんな生活を強いられているのだろうか?

そんな問いかけに、はたと立ち止まって考えてほしい。自身、本に書いてある事実があるとは知つていながらも、実際に向き合つていなかつた。「在日外国人の日本での生活は厳しい」とボヤつとしか思ひ描いていなかつたイメージが、初めて現実の像となつて現れた。それは、あまりにもリアルで、あまりにもわかりやすかつた。思い描いていた現実が具体的に目の前に突きつけられた。

そして、それを知つていながら、はつきりと自分の中で向き合つていなかつた。その自分を恥ずかしく思い、愕然としました。

自分は知つていると思い込んでいたらどうつか? この本に書いてあることは今の日本の事実である。経済発展の影に、意識のグローバル化が立ち遅れている国、ニッポン。政府が生み出す不法滞在者。それにはあなたも無関係ではない。この本はそう語りかかる。

# Event Schedule

イベント すけじゅーる

**July**

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

7月16日(日)、17日(月・祝)

## イスラエル・パレスチナの素顔 —学生の視点から 写真展

紛争、テロなどのセンセーショナルなイメージとは一味違うイスラエル・パレスチナの日常の様子を学生の撮影した写真を通じてお伝えします。※DVD上映とイスラエル・パレスチナ滞在報告会同時開催

■日時：7月16日(日)～17日(月・祝)  
10:30～17:00

■場所：あーひぶ5階3階企画展示室

■参加費：無料

■主催・問合せ：日本・イスラエル・パレスチナ学生会議

TEL:080-6582-2703 (担当:林あかね)  
E-mail:info@jipsc.org

HP:http://www.jipsc.org

■共催：(財)神奈川県国際交流協会  
TEL:045-896-2899

FAX:045-896-2299

7月19日(水)

## 演劇をとおして学ぶ 「持続可能なまちづくり」

フィリピンで演劇を活用した参加型まちづくりを行っているPETA(フィリピン教育演劇協会)の事務局長Ms.Bengをゲストにお招きします。演劇を「持続可能なまちづくり」に生かす手法を、からだを動かして体験しながら学びます。

■日時：7月19日(水) 14:00～16:30

■場所：あーひぶ5階1階ワークショップルーム

■定員：30名(事前申込制・先着順)

■参加費：無料

■申込み：(1)講座名(2)氏名(ふりがな)(3)所属(4)連絡先(5)セミナーで知りたいことを明記して下記までお送りください。

■問合せ：(財)神奈川県国際交流協会  
学習サービス課(担当:速水)

TEL:045-896-2899 ※祝日除く月曜休み

FAX:045-896-2299

E-mail:gakushu@k-i-a.or.jp(件名は「地球市民ひろば」)

● 第2回  
地球市民ひろば

7月22日(土)～8月27日(日)

## 世界の戦場から 写真展

9・11同時多発テロからパレスチナでの対立激化、アフガン空爆、イラク戦争と、ここ数年時代が恐ろしい勢いで動いています。私たちがどこに立っていて、どこに行こうとしているのか、知ることも極めて困難であり、その影で膨大な犠牲者が生まれ続けているのです。この写真展は世界の戦場を撮り歩くフォトジャーナリスト11人による、反テロ戦争・難民・飢餓・地球環境などをテーマとした写真展です。その写真と文章に込められたメッセージに、みる人は心をゆさぶられます。

■日時：7月22日(土)～8月27日(日)  
9:00～17:00 ※月曜休館

■場所：あーひぶ5階3階企画展示室

■主催：神奈川県立地球市民かがわプラザ  
(指定管理者：(財)神奈川県国際交流協会)

■協力：日本ビジュアル・ジャーナリスト協会(JVJA)

■問合せ：(財)神奈川県国際交流協会

学習サービス課(担当:横山)

TEL:045-896-2899 ※祝日除く月曜休み

FAX:045-896-2299

E-mail:gakushu@k-i-a.or.jp

7月23日(日)

## ワールドカルチャー・デイ

7月は「ヨーロッパ」です。

■日時：7月23日(日)

①ピエンナーレ国際児童画展作品展示

9:00～17:00

②おしゃべりワールド【講師：フランシスさん(アイルランド出身)】14:30～16:00

③絵本で知る世界の国々(21日～27日)

10:00～16:00 ※24日(月)休み

④あーすシアター

(a)「イタリア美術と音楽の旅」11:00～12:00/13:30～14:30 (b)「水は誰のものか」15:00～15:30

■参加費：無料(②は常設展示室観覧料)

■問合せ：(財)神奈川県国際交流協会  
学習サービス課(担当:菅沼)

TEL:045-896-2899 ※祝日除く月曜休み

FAX:045-896-2299

E-mail:gakushu@k-i-a.or.jp

7月29日(土)

## コンビニ弁当16万キロの旅

私たちにはとても身近なコンビニ弁当。でも、それの食材は、どのような旅を経て、私たちに届けられるのでしょうか。学校やいろいろな研修で使えるクイズ形式の模擬授業を、あなたも受けてみませんか?

■講師：千葉保(国学院大学講師)

■日時：7月29日(土)13:30～15:30

■場所：あーひぶ5階1F会議室

地球市民リーダーセミナー①

■対象：一般、学生、教育関係者など

■定員：30名程度

■参加費：無料

■問合せ：(財)神奈川県国際交流協会

国際協力課(担当:キム)

TEL:045-896-2964 ※祝日除く月曜休み

FAX:045-896-2945

E-mail:minsai@k-i-a.or.jp(件名は「地球市民リーダーセミナー」)

**August**

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

8月11日(金)、12日(土)

## 「沖縄の缶カラ三線を作ろう」

### 体験セミナー

今回の体験セミナーでは、缶カラ三線を製作する作業を通して缶カラ三線が作られた背景にある沖縄の文化、歴史について学びます。また、完成した三線で簡単な曲が弾けるように練習も行います。

■講師：太田武二さん(琉球センター・どうたっち)

■日時：8月11日(金)14:00～16:30、12日(土)14:00～16:30

\*2日連続の講座になります。

■場所：あーひぶ5階1階ワークショップルーム

■定員：25人

■受講料：大人 5,000円(協会会員4,500円)  
子ども 3,000円

親子参加 7,500円(協会会員7,000円)

■申込み：お名前・ご住所・電話番号を下記連絡先までお知らせください。追ってこちらから納入方法等を連絡します。

■問合せ：(財)神奈川県国際交流協会 国際協力課(担当:富本)

TEL:045-896-2964 ※祝日除く月曜休み

FAX:045-896-2945

E-mail:minsai@k-i-a.or.jp(件名は「世界の文化セミナー」)

世界の文化セミナー

8月12日(土)

15:30～古居みすえ監督のトークショー

## GHADAガーダ

朝日新聞、日経新聞  
でも紹介されました!

難民キャンプの中で赤ん坊をあやし、菓子をつくり、歌うことが平和をつくる彼らたちの「戦い」だった。巨大な力によって奪われた故郷を取り戻そうとするパレスチナの女性。原因不明の病魔に襲われ「一度きりの人生。何かを表現したい」と思い立った日本人女性。二人の女性が平和のために紡いだやさしさの「戦い」の記録。

■日時：8月12日(土)13:30～16:30(開場13:00)

■場所：あーひぶ2階プラザホール

■定員：200名

■参加費：一般 800円 前売り・高校生以下 600円  
国際交流協会会員 400円

\*前売券は、あーすぱらざ窓口のみで販売。電話予約は受付ません。

■問合せ：(財)神奈川県国際交流協会

国際協力課(担当:水野・キム)

TEL:045-896-2964 ※祝日除く月曜休み

FAX:045-896-2945

# 世界の食卓から②

毎回世界のさまざまなレシピを  
ご紹介します

## ピザマルゲリータ Pizza Margherita

シンプルでいつでも食べたくなるナポリの定番ピザです。



### 【材 料】

トマト缶	.....	250g
モツツアレラチーズ(生)	.....	250g
すりおろしたパルミジャーノチーズ	.....	スプーン1
エキストラバージンオイル	.....	スプーン3
パセリの葉	.....	8~9枚

### 【作り方】

1. 生地を作る。発酵してふくれたら、生地を取り出し、テーブルの上でまた1分間こねて、軽く粉をまぶす。
2. ピザ生地の形に伸ばし、天板の上にひろげる。
3. トマト、モツツアレラチーズ、パルミジャーノチーズ(好みで)を並べ、オリーブオイルスプーン1杯をふりかける。
4. 250℃のオーブンで10~20分間焼く。
5. ピザにバジルの葉を飾り、オイルをかけたらできあがり。

### 会員の声

#### こぱり しんpei 小張 慎平さん

私は、今年の3月に行われた「2005年度カンボジアスタディツアー」に参加させていただきました。8泊10日という短い期間でしたが、ともかく生のカンボジアを全身で感じきました。現地の中学生・高校生と交流して、その素晴らしい笑顔や人の良さから、すぐにカンボジアを大好きになってしまった自分がいました。

国際交流というと、とても難しくて、簡単には入り込めないような世界のように思っていました。しかし、現地で活動されている方々も、講師として私たちの研修

会にいらした方々もとても気さくな方ばかりで、何でも気軽に教えていただけました。知識の量よりも、飛び込んでいくような勇気と、何か行動を起こしたいという意志が大切であることを学びました。

最後に、私はこのツアーを通して、普段の生活では得がたい、それぞれ熱い心を持った、真剣に語り合える仲間を得ました。実は私にとってはこのことが一番大きいと思います。私はこれからもあーすぱらざで行われる、いくつものイベントを通して、さまざまな人とのつながりを大切にしていきたいと思います。

●神奈川県国際交流協会(KIA)とは  
地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人のつながりを大切にした「国際交流」「国際協力」を推進する様々な事業を開催しています。

### ●会員になりませんか?

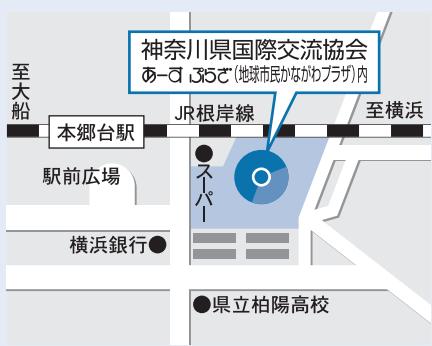
協会の活動を支える会員を募集しています。会員になると…

- ①協会が主催する各種催しや国際交流団体、NGOの催し情報、ボランティア情報を掲載した『Hello Friends』をお送りします。
- ②当協会の出版物の割引サービスが受けられます。
- ③会員の方を対象にした催しへご招待します。
- ④『エスニック・レストラン・マップ』をお送りします。
- ⑤会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。
- ⑥あーすぱらざのレストラン「メルヘン」でお食事の場合、会員証の提示で、コーヒー、紅茶、グラスワイン、ソフトドリンクの一品サービスが受けられます。
- ⑦あーすぱらざ ショップ「ペルダ」で2,000円以上(税別)購入の場合、会員証の提示で10%割引が受けられます。

年会費 : 一般	3,000円から
学 生	1,500円から
団 体	10,000円から

\*会員登録をご希望の方は、協会までお問い合わせ下さい。振り込み用紙など関係資料をお送りします。

★当協会は、2006年4月より、神奈川県から指定管理者の指定を受け、あーすぱらざを運営することになりました。



このほか、神奈川県国際研修センターと  
神奈川国際学生会館を運営しています。

Hello Friends 2006年7月1日発行 第251号

発行／財団法人 神奈川県国際交流協会 TEL:045-896-2626 FAX:045-896-2945 URL:<http://www.k-i-a.or.jp> E-mail:minsai@k-i-a.or.jp 印刷／文明堂印刷株式会社

# これまで社会福祉・安全への 貢献20年20億円を達成しました。 21年目の今年もがんばっていきます。

神奈川県遊技場協同組合  
神奈川福祉事業協会  
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町1-6-10 神奈川県遊技場協同組合会館